



シリーズ病診連携

みんなの健康づくり

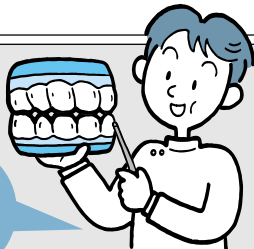
～食事・治療・歯・薬を考える～

教えて！ 健康のコツ

小笠掛川歯科医師会 その8
(☎ 22-6120・FAX22-1567)

チェック！

お口の中の義歯の状態は
いかがですか？



口の中で、義歯があちこち当たって痛い
義歯がはずれやすくなってきた
食べづらくなってきた
顎の関節あたりに違和感が出て、
口が開けづらくなった
義歯を支えている歯が揺れるようになった

当てはまる項目があるときは、
かかりつけ医へ気軽に相談してみましょう。

（義歯（入れ歯）使用の方へ） 定期チェックで快適生活

義歯と顎堤あごづえの関係

歯が無くなると、時間の経過とともに顎堤（歯が生えていた土手）が少しずつなくなっていくきます。これは生理現象ですから、止めることはできません。顎堤は義歯の土台として、入れ歯に作用する力を負担すること

から、顎堤の状態は義歯の維持・安定に大きく影響します。

義歯の耐用年数

新しい義歯を入れてから、しばらくは快適に使用できていても、いつしか少し緩くなってきたと感じるようになります。その時期は人によって異なりますが、おおよそ4年ほどです。

合わなくなった義歯を、そのまま何年も口に入れたまま使われている方を見受けますが、いち早く定期検診を受け、義歯の隙間を埋める裏打ち（リライニング）や、かみ合わせの調整をしてもらうこととお勧めします。これにより、再び継続して快適に使用することができます。

個人差はありますが、義歯は8年から10年くらいをめどに、新しく作り替えた方がよいでしょう。

義歯安定剤を使用している方は、食事や話をしているときに義歯が口の中で不安定になり、安心して使えない状況にあると推察できます。義歯安定剤を短期的に使用することについては問題ありません。しかし、義歯と顎堤粘膜が明らかに合わなくなった状態で、厚く塗った義歯安定剤を長期にわたり使用することは、決して好ましいことではありません。なぜなら、義歯安定剤を入れるたびに、かみ合わせの位置が変わり、上下の義歯のかみ合う場所が安定しないからです。

このような場合、さきほど述べた裏打ち（リライニング）という方法もありますので、かかりつけ医とご相談ください。

義歯安定剤の使用

